

朝日新聞【昭和 49 年(1974)9 月 7 日】より

カラヤンの約束実現

西ベルリンへ出発 9 カ国の大学と競演 上智大学管弦楽部

世界的な指揮者、ヘルベルト・フォン・カラヤンの招きで第 3 回国際青少年オーケストラ・コンクールに参加するため、7 日夜、上智大学管弦楽部のメンバー108 人が羽田空港をたち、ドイツの西ベルリンに向かった。昨年秋、カラヤンが来日した時に、同大オーケストラを指揮したのがきっかけで、一般の大学としては異例の招待となった。メンバーはカラヤンとの再会を楽しみに、この夏、猛練習を続けてきた。ベルリンでは、9 カ国の学生オーケストラと腕を競う。

昨秋、カラヤンがベルリンフィルをひきいて来日した時、同大オーケストラのメンバーの女子学生ひとりが同フィルのチェロ奏者やマネジャーを通じて「うちの大学を指揮してください」と、希望をカラヤンに伝えた。この話を聞いた部員たちは「あの世界的な指揮者が、アマチュアオーケストラに顔を出すわけがない」と、みな悲観的だった。

ところが、10 月 31 日夕、黒のタートルネックのシャツにブレザーという気軽な姿のカラヤンが、同大オーケストラの練習場にふらりと訪れた。同大の指揮者、汐澤安彦さんの指揮ぶりを 10 分ほど見たあと、指揮台にのぼり、ベートーベンの「第 9」のタクトを振った。

指揮を終えて、カラヤンはこの若者オーケストラが気に入ったのか、「来年、ドイツに来ないか」と、思わぬ話を口にした。部員たちは半信半疑だった。ところが、その言葉通りことし 2 月ごろ、正式に「招待したい」と話が持ち込まれ、6 月ごろ訪独が決まった。

同大オーケストラが参加するコンクールは、ベルリンのカラヤン財団が 1 年おきに開いているもので、ことしは 12 日から 22 日まで開催される。参加するのは、アメリカ、スイス、ルーマニア、オランダ、チェコなど 10 カ国。ほとんどが各刻の音楽大学のオーケストラで、上智大のような一般大学のアマチュアオーケストラが参加するのは珍しいという。だから「なぜわれわれが招かれたのか、よくわかりません」と、メンバーは飛行機に乗るまで夢ごころだった。

コンクールでは、毎晩一つの大学が演奏し、同大は 20 日に晴れの舞台にのぼる。曲目はウェーバーの「魔弾の射手」、ブラームスの「交響曲第 4 番」など。第 1 学年に入学して初めて本格的に演奏に取り組む部員が半数近くもいるので、この夏群馬県富岡市で猛練習にはげんだ。OB 15 人も勤めを休んでコンクールに参加する。

滞在費は、カラヤン財団が負担するが、旅費 22 万円は自己負担。「学生オーケストラなので、スポンサーに頼りたくない」と、肉体労働などのアルバイトで旅費をためた者が多い。帰国は試験期間中の 25 日の予定。だから、演奏の合間にベルリンで試験勉強に取り組むという。